



発行所
 東京九嶺宮原同窓会事務局
 〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台7-21-26-508
 末永俊幸方
 電話 090-6943-8065
 印刷：泰成印刷株式会社
 電話 03-3631-8141

経済の 活性化論に 想う



東京九嶺宮原同窓会
 会長 大崎 康博
 (九嶺24回)

アベノミクスによる金融緩和と財政出動

の影響で日本経済は上向き、世相はいくらか明るくなってきた感があります。経済の実体が上向いているのかどうかは兎も角、経済は世間の空気によって左右され、皆が将来に明るい希望を持てば、それに支えられて前に動き出す所があつて、明るい希望を持つことが景気を支え、向上させることも十分考えられます。今後、日本の経済が上向きに走り出すであろうとの楽観論も強い根拠のないものではないと思われま

す。日本社会の政治、経済について希望を以て見護りたいと思います。しかし、日本の経済の活性化、発展の必要性は認めるとしても、それを手放して肯定できるかについて、躊躇せざるを得ません。即ち、経済の発展と今世界的に問題提起がされている良好な地球環境の維持を如何に調和させることが出来るかの問題があります。

これまでのやり方での経済の活性化は、

間違ひなく二酸化炭素の排出量の増加を招きます。近隣諸国の水、大気汚染による健康被害は既に広範囲に亘つて生じ、地球規模での南北極の水解現象、旱魃、集中豪雨、海面の上昇等による被害は現実化しております。

地球の環境問題は、世界全体が現在の経済活動を続ける限り気付かない内に徐々に(気温の上昇)或いは急速にか(異常気象、大気汚染)は兎も角、間違ひなく悪い方向に進行しております。しかも、その結果は人類の生存そのものを脅かすことが予想されます。

国連の気候に関する政府間パネル(IPCC)の報告書によれば、二酸化炭素の放出を現状の俣放置すれば、地球の気温は、今世紀末(86年後)までに最大4.8度上昇し、海面水位は最大で80センチ上昇すると予想し、数億の人々が居住を高所に移住しなければなら

ないとしております。

世界の人口は増加し続けておりますが(現在62億2200万人)、環境変化による気候変動による食糧不足も心配されております。

アベノミクスによる我が国の経済の発展は望ましいことだと(一応は)言えますが、これまで通りの経済の活性化であれば当然二酸化炭素搬出の増加を続けます。

日本全体の関心事は、経済の発展に片寄り、これと関連しての環境汚染対策の議論が欠けていないでしょうか。

一つの政策を採りあげるとき、積極面のみを採り上げ、マイナス面に触れないことは間違ひしているだけでなく無責任であります。

人類は、生産を上げ、豊かな社会を「創れば「幸しあわせ」になる(所謂「右肩上がり」の社会)と信じて努力してきましたが、その結果が人類を幸福にするどころか、生存そのものを脅かしかねない事態を招こうとしているのではないかと危惧します。豊になることだけに一生懸命になるのではなく、同時に良好な地球環境を維持し、災害や病気から人々を護るための方策にも智慧を回らし、人類が将来とも安心して生存できる世界を考えることは決して現実離れをした空理空論とは思えません。